Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University
2018, Vol.27, 287-294

報 告

鹿児島県の中学・高等学校における教科「美術」の現状についての調査報告①

美　坂　康太郎［鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター研究協力員］
池　川　　直［鹿児島大学教育学系（美術教育）］
上　松　真　弥［鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター研究協力員］

A survey report on the current state of subject“Art”at junior high and high school in Kagoshima prefecture ①

MISAKA Koutarou・IKEGAWA Sunao・ UEMATSU Maya

キーワード：美術、鹿児島、中学校、高等学校、アンケート調査

1. はじめに

中学校美術の年間授業時数は，必修で，第１学年で４５時間，第２，３学年で３５時間の計１０５時間となっている。また，扱う内容は，【表現】，【鑑賞】があり，【表現】では，⑴感じ取ったことや考えたことなどを基に，絵や彫刻などに表現する活動を通して，発想や構想に関する次の事項を指導する。⑵伝える，使うなどの目的や機能を考え，デザインや工芸などに表現する活動を通して，発想や構想に関する次の事項を指導する。⑶発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して，技能に関する次の事項を指導する。としており，⑴及び⑵と⑶を原則として関連させて授業を行うように決められている。

また，高等学校においては，選択必修の単位として，美術Ｉの２単位（７０時間）が必修となっている。また，内容については，【表現】⑴「絵画･彫刻」，⑵「デザイン」，⑶「映像メディア表現」と，【鑑賞】となっており，高等学校学習指導要領　第２章　第１７節より，「絵画」か「彫刻」のどちらかと，「デザイン」，「映像メディア表現」のどちらか。さらには，「鑑賞」を行うように決められている。

それぞれ学習指導要領で時数や内容について決められていて，それに則って年間指導計画等の作成を行っているところであるが，学校によって，知識や技能，理解において，差異が生じているように感じる。例えば，「色相環」や「色の三原色」，「モダンテクニック」などを忘れてしまっていたり，作家といえば，「ゴッホ」や「ピカソ」しか知らなかったりする場合も見られる。

また，評価ついては，観点別に評価するようになっているが，平成２１年に行われた全国での意識調査では，「鑑賞の能力」について，円滑に評価できていない結果も見られる。

さらには，新学習指導要領が中学校では，平成３３年度から全面実施。高等学校においては，平成３４年度から全面実施となる。このような現状の中，現在の鹿児島県下の中学校，及び，高等学校での「美術」の授業内容等について平成２９年度に実施した内容の現状を調査することにより，実態を把握し検討することで次期の学習指導要領にそった充実した内容のカリキュラムづくりに活かす手立てになればと考えている。

2. 調査項目

年間指導計画や，授業時数，生徒への対応，評価の方法などを中心に，以下の内容について調査を行っていく。

2.1. 先生や勤務先の学校についての質問【中・高共通】

① 学校名

② 美術教員の数

③ 性別

④ 年齢・・・年令層毎

⑤ 職名等・・・教諭，期限付講師，非常勤講師，その他に分類

※「教諭」と答えた方への質問

⑤－１：現在までの勤務年数

⑤－２：現在の学校での勤務年数

⑥ 担任をしているか，していないか

⑦ 勤務先の学級数（特別支援学級を除く。）

・・・５学級以下～３０学級以上を，１０段階に分類

⑧ 使用している教科書

⑨ 週当たりに担当している授業時数（単位時間）

⑩ 授業の形態・・・１クラス，２クラス合同など

⑪ 美術を教えている生徒数（全学年の合計の人数）

・・・５０人以下～３００人以上を，１０段階に分類

⑫ １つの授業における生徒の数（平均値）・・・１０人以下～４０名を７段階に分類

⑬ 部活動に美術部があるか

2.2. 学習指導や学習評価の状況について【中・高共通】・・・複数の項目から，選択

① 年間指導計画について

② 授業や学習指導について心掛けていること

③ 学習内容の習得が困難な生徒への対応の仕方

④ 制作への苦手意識の高い生徒への対応の仕方

⑤「美術への関心・意欲・態度」の評価の方法

⑥「発想や構想の能力」の評価の方法

⑦「創造的な技能」の評価の方法

⑧「鑑賞の能力」の評価の方法

⑨ 観点別学習状況の評価について，評価の資料の収集・分析，評価の決定を円滑に実施できているか

⑩ アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けた取り組みの実施状況

⑪ カリキュラム・マネジメントの確立に向けた取組の実施状況

2.3. 中学校への調査

① 考査の実施について

※　実施している場合

①－１　考査の内容について

②　昨年度の実授業時数について

2.4.　高等学校への調査

①　選択教科での美術の有無について

②　選択（音楽，美術，工芸，書道）の割合について

③　美術Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの実施状況について

④　考査の実施について

※　実施している場合

④－１　考査の内容について

⑤　昨年度の実授業時数について

3.　鹿児島県の中学校

3.1.　中学校数

・　公立中学校：２２９校　※　国立含む

・　私立中学校：　１０校

3.2.　正規の美術教員の数

・　不明

※　鹿児島県美育協会（小・中学校の図画工作，美術教員による組織）に問い合わせたところ，把握できていないとの回答をいただいた。

3.3.　約１００名程度が正規の教員だろうとの回答をいただいたが，正確な美術教員の数が把握できていない状況である。また，小規模な中学校も多く見られるため，他教科との兼務や，非常勤講師などで対応している学校が多くなっている。そこで，教員数などについて現状を把握していく。

4.　鹿児島県の高等学校

4.1.　高等学校数

・　公立高校：６８校（内市立高校：７校）

・　私立高校：２１校

4.2.　芸術で美術選択がある学校数

・　公立高校：６４校

・　私立高校：１１校

4.3.　芸術専門の学校数

・　公立高校：　１校

4.4.　正規の美術教員の数

・　公立高校：２７名　※再任用教諭含む

・　私立高校：　４名

4.5. 鹿児島県では，「鹿児島市・熊毛地区」，「南薩地区」「北薩地区」「姶良・伊佐地区」，「大隅地区」，「大島地区」の６つの地区に分けられているが，地区によっては，正規の美術教員が２名しかいないような地区もでてきており，運営等に支障がでてきている。また，他校との兼務の教員もいて負担が大きくなってきている。

5. 今後の計画について

時　期	計画内容	備　考
１０月下旬	・　アンケート調査の実施	県内全ての中学校・高等学校へ依頼
１２月上旬	・　アンケートの回収	
１２月上旬～１月中旬	・　アンケートの集約	
１月下旬～３月下旬	・　アンケートの分析	
４月上旬～	・　論文の執筆	

6. 資料

6.1. 中学校美術，高校芸術の授業時数の変遷

表１　中学校美術

施行年度	教科名	１　年	２　年	３　年	計	備　考
昭和２２年度～	図画工作	７０	７０	７０	２１０	
昭和２４年度～	図画工作	７０～１０５	７０～１０５	７０～１０５	２１０～３１５	
昭和２６年度～	図画工作	７０～１０５	７０～１０５	７０～１０５	２１０～３１５	
昭和３７年度～	美　術	７０	３５	３５	１４０	
昭和４７年度～	美　術	７０	７０	３５	１７５	
昭和５６年度～	美　術	７０	７０	３５	１７５	
平成　５年度～	美　術	７０	３５～７０	３５	１４０～１７５	
平成１４年度～	美　術	４５	３５	３５	１１５	
平成２４年度～	美　術	４５	３５	３５	１１５	現行
平成３３年度～	美　術	４５	３５	３５	１１５	新

最大３１５時間あった授業時数が，２００時間減の１１５時間まで減っている。また，平成に入ってからも，６０時間削減されていることがわかる。

表２　高等学校【芸術】

施行年度	教科名	標準単位数	備　考
昭和２３年度～	図工	２～６	
昭和２６年度～	芸能【図工】	２～６	
昭和３１年度～	芸術【美術】	２・４・６	
昭和３８年度～	芸術【美術Ⅰ】	２	Ⅰは必履修
	芸術【美術Ⅱ】	４	
昭和４８年度～	芸術【美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】	２	Ⅰは必履修
昭和５７年度～	芸術【美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】	２	Ⅰは必履修
平成　６年度～	芸術【美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】	２	Ⅰは必履修
平成１５年度～	芸術【美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】	２	Ⅰは必履修
平成２５年度～	芸術【美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】	２	Ⅰは必履修，現行
平成３４年度～	未定	未定	

※　１単位：３５時間

高等学校については，大きく授業時数が変化してはいない。標準単位数が２単位となっているため，学校によってはそれを越えて実施することも可能である。

6.2. 学習指導と学習評価に対する意識調査

表３　授業や学習指導において心掛けていること

	質問事項	中学校	高　校（芸術）
①	教科書にあることを丁寧に教える授業	15.8	16.2
②	教科書などの課題に加え，教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業	63.2	77.9
③	観察や実験を行う，現場で実物に触れるなど，体験を重視する授業	12.6	17.6
④	専門家や地域の人を招いて，話を聞いたり討論したりする授業	3.2	2.9
⑤	児童生徒がグループで話し合い，考えなどをまとめる授業	17.9	8.8
⑥	児童生徒が，自分で課題を選択し，調べたことや考えたことに基づいて，レポートを書いたり発表したりする授業	12.6	8.8
⑦	本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業	62.1	42.6
⑧	小テストやワークシートなどにより，学期末などだけでなく，日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業	15.8	16.2

⑨	振り返りシートなどにより，児童生徒自らに学習状況を評価させる授業	15.8	7.4
⑩	繰り返し教えたり，確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業	17.9	14.7
⑪	習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業	10.5	19.1
⑫	コンピュータやプロジェクタ，電子黒板などを活用する授業	11.6	1.5
⑬	競争を適度に促す授業	1.1	5.9
⑭	宿題を定期的に出す授業	6.3	11.8
⑮	その他	9.5	16.2
⑯	無回答	0.0	0.0

※　数値はパーセント（%）

平成２１年のデータで，現行の学習指導要領に改定された時点での調査結果となっている。また，中学校は美術，高等学校は芸術としてのデータとなっているために，一概に比較できないが，項目によって，１０ポイント以上の開きがあるものが見られる。

表４　観点別学習評価について，円滑に実施できているか

	学校別	そう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
美術への関心・意欲・態度	中学	30.5	51.6	11.6	0.0	6.3
	高校〔芸術〕	25.0	64.7	4.4	4.4	1.5
発想や構想の能力	中学	31.6	49.5	11.6	1.1	6.3
	高校〔芸術〕	27.9	52.9	14.7	2.9	1.5
創造的な技能	中学	42.1	41.1	9.5	1.1	6.3
	高校〔芸術〕	26.5	45.6	22.1	4.4	1.5
鑑賞の能力	中学	16.8	36.8	31.6	8.4	6.3
	高校〔芸術〕	13.2	45.6	35.3	4.4	1.5

※　数値はパーセント（%）

「創造的な技能」での評価については，中学校と高等学校〔芸術〕で大きく開きがでている。また，「鑑賞の能力」については，どちらも，評価の仕方があまり円滑に実施できてないことがわかる。

6.3. 公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果

表５　全国の芸術【美術】の開設状況

	普通科				専門学科				総合学科
	１年次	２年次	３年次	単位制	１年次	２年次	３年次	単位制	単位制
美術Ⅰ	82.4	6.8	4.3	5.6	62.2	8.7	5.8	1.6	94.7
美術Ⅱ	0.1	52.6	15.6	4.5	0.1	4.9	6.8	0.5	65.0
美術Ⅲ	0.0	0.0	32.2	2.5	0.0	0.0	1.5	0.2	33.3

表６　全国の芸術教科の選択の割合

	音楽Ⅰ	音楽Ⅱ	音楽Ⅲ	美術Ⅰ	美術Ⅱ	美術Ⅲ	工芸Ⅰ	工芸Ⅱ	工芸Ⅲ	書道Ⅰ	書道Ⅱ	書道Ⅲ
普通科等	43.3	14.7	2.1	28.9	10.8	2.3	1.3	0.5	0.2	27.7	9.9	1.5
職業教育を主とする専門学科	39.7	1.4	0.0	35.8	1.1	0.0	0.2	0.0	0.0	25.9	0.8	0.0
総合学科	40.3	8.4	1.6	33.8	6.1	1.6	6.3	0.6	0.1	26.7	4.0	1.2
合計	42.2	10.9	1.6	31.0	8.0	1.7	1.4	0.4	0.2	27.2	7.2	1.1

※　数値はパーセント（%）

6.4. 教育課程企画特別部会 論点整理

6.4.1　図画工作，美術，芸術（美術，工芸）における現状と課題

図画工作科，美術科，芸術科（美術，工芸）においては，創造することの楽しさを感じるとともに，思考・判断し，表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること，生活の中の造形や美術の働き，美術文化に関心を持って，生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと等に重点を置いて，現行の学習指導要領に改訂され，その充実が図られてきているところである。

一方で，感性や想像力等を豊かに働かせて，思考・判断し表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや，生活を美しく豊かにする造形や美術の働き，美術文化についての実感的な理解を深め，生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については，更なる充実が求められるところである。次期改訂に向けては，幼児期に育まれた豊かな感性と表現等の基礎の上に，小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質･能力を，三つの柱に沿って明確化し，各学校段階を通じて，育成すべき資質･能力の相互の関連や学習内容との関係を一層明確にした主体的で創造的な学習活動，生活や社会の中の造形や美術の働きや美術文化に関する学習活動の充実を図り，豊かな情操を養っていくことが求められる。

6.4.2　アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善：３つの要素

①　習得･活用･探究という学習プロセスの中で，問題発見･解決を念頭に置きつつ，深い学びの過程が実現できているかどうか。

②　他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める，対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

③　子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる，主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

6.4.3.　カリキュラム・マネジメントの３つの側面

①　教育内容を，一つの教科に留まらずに各教科横断的な相互の関係で捉え，効果的に編成する。

②　子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程の編成，実施，評価，改善のサイクルを確立する。

③　教育内容と，指導体制や ICT 活用など諸条件の整備・活用を効果的に組み合わせる。

【参考資料】

文部科学省　高等学校学習指導要領（平成２１年）

文部科学省　高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽　美術　工芸　書道）編　音楽編　美術編（平成２１年）

文部科学省　中学校学習指導要領（平成２０年）

文部科学省　中学校学習指導要領（平成２９年）

文部科学省　中学校学習指導要領解説　美術編（平成２０年）

文部科学省　芸術系科目の現状と課題について（平成２７年）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/069/siryo/__icsFiles/afieldfile/2016/02/16/1366931_1.pdf

文部科学省　芸術ワーキンググループにおける取りまとめ（平成２８年）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/069/siryo/__icsFiles/afieldfile/2016/06/08/1371891.pdf

文部科学省　平成２７年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果について（平成２８年）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/__icsFiles/afieldfile/2016/03/11/1368209_02.pdf

文部科学省　学習指導と学習評価に対する意識調査報告書（平成２２年）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/__icsFiles/afieldfile/2010/02/19/1289879_1.pdf

文部科学省　教育課程企画特別部会論点整理（平成２７年）
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf

鹿児島県高等学校美術工芸教育研究会　高美研誌　第４１号（平成２９年）